

寒くなる話



Aブロック作品と講評
www.columnland.net

ニュース

「3月9日午後11時25分ごろ、札幌市北区の路上で、帰宅途中の女子高生が、背後から近づいてきた全裸の男に押し倒され、身に着けていた下着などを奪われた。男は徒歩で逃げた。女子高生は手に軽いけがをした。」

札幌北署は強盗事件として調べている。同署によると、男は30〜40歳ぐらいで身長約165センチ。小太りで眼鏡をかけていた。」

突っ込みどころは3つ。

1つめは「徒歩で逃げた。」
徒歩で・・・だと？

2つめは「眼鏡をかけていた。」
全裸じゃなくね？

3つめは時期である。
3月の北海道は真冬・・・だぞ？

つまりこの男は雪の積もった氷点下の中、眼鏡一丁で散歩してたわけか。

実際にあった怖い話

私が高校生だったころの話です。正確にいつだったかは覚えてません。あれは、とにかくすごく暑い日の夜のことでした。その夜は暑すぎて、簡単には眠れず、やっと意識が切れたのは2時すぎでした。しかし、あまりの暑さのせいで、深くは寝られませんでした。僅かな意識の中、私はある気配を感じました。聞こえるのは虫の鳴き声だけ、でも、部屋の中に自分以外の誰かがいるのがわかりました。たまにあることです。一人で寝るとき、目を開けたら目の前に見知らぬ顔が笑っているのではないかと、そんな妄想をしてしまうことぐらいは、よくあることです。その妄想を振り払うために、私はゆっくりと目を開けました。

そして私は凍りついてしまいました。部屋の中に誰かがいたのです。怖くて怖くて、まぶたすら動かさせませんでした。その人は私の椅子に腰掛けていました。二秒ぐらいが経ってから私は胸をなでおろしました。その人は父でした。部屋は暗かったですが、パソコンのモニターから放たれる光のおかげでが父の顔ははっきりと見えました。そこで、私は父の様子が変なことに気づきました。いつもの優しい家長としての父ではありませんでした。その顔に表情はなく、なにかに憑かれたようにモニターを見つめていました。私が寝ていた位置ではモニターも見えたので、不安になりつつモニターの方に視線を移した私は、驚きすぎて小さいながらも悲鳴さえもらしてしまいました。

モニター映っていたのは、女の人の顔でした。その顔は酷く歪んでいて、まるで苦痛に耐えられずに悲鳴をあげているように見えました。悲惨な顔でした。その顔を見つめる父はあくまでも無表情でした。そこで私は思い出ししました。その女の人の顔に見覚えがあることを。実はその日の夜も、その前の日の夜も、またその前の日の夜にも私はその女の人の顔を見たのです、そのときの父と同じように。私は耐えられなくなりました。そのような異常な事態を前にして思考さえもできませんでした。そして私は全てを見なかったことにすると決めました。そのとき私にできることはありませんでしたから。隠しておいたお気に入りのエロ動画を父が夢中になって見ていることを目の前にして、何ができるでしょう。

普段はなかなか出来ない体験ができるというお店があると聞いて、私は新宿駅から少し歩き、わき道に入った。

そこはなんとも変わった機械があった。DVDプレーヤーのようなものにヘルメットの形をした機械がつながれていて、それを使うと他人の記憶をあたかも自分のことのように体験できるのだ。

例えばスポーツ選手。一流のスポーツ選手の感覚や試合中の視点を体験できてしまうのだ。

店内は某レンタルビデオショップのように自分で見たい作品をレジに行ってお金を払い、借りる。違うのはそれを持ち出すことは出来ず、借りたら店内にある個室に入り、見終わったらすぐに返すというところだ。

私はすぐにのめりこんだ。毎日ただ会社に行き、似たような仕事を怒られながらやるという変化のない日常にことに比べたら、非常におもしろかったのだ。

少し高かったが、わたしは週に一度から週二、週三、徐々に通う頻度が増えていった。

いろんな作品を見た。アイドル、パイロットなど片っ端から見た。

ある日いつもにこにこしている人当たりのいい店長から常連さんだけの特別ですよ、と一本の作品を勧められた。私はもう普通のもものでは満足できなくなっていたので勧められるがままにそれを見た。殺人犯の記憶だった。衝撃的であったが、なぜか病み付きになってしまった。

いつもどおり店に行き、いつもどおり、作品を手にとって視聴した。なんか見慣れた場所だった。なぜか私はにこにこしている。ヘルメットをかぶった人が中にいる防音仕様の個室に入る。その人は自分に気づいていない。自分は懷から持ち出したナイフで首を声帯もろとも切る。相手は声を出せないまま死んでいく。いろいろなところを刺してみる。血の出る量が場所によって違ってるのがおもしろいみたいだ。

その後、自分は会計を済ませて帰る私自身に会った。内心、次はあいつだと考える自分がいた。

「レンタル」

いやー、うちのファーザーは部長だったんですが、この前、学校で、

部長が潰れてブチヨッ

って言いまくっていたら、一昨日ファーザーの会社が潰れましたこれはまさしく

父さんの会社が倒産した

に相当します、そしたらファーザー責任を感じたのか、十階からの飛び降りを考えたとようです、しかしぎりぎりで思いとどまったようです

部長が潰れてブチヨッ

この事態だけは避けられました
危うく私が預言者になるところでした

【こんなやつが周りにいると背筋が……】

男は大学生だった。

ある夜、独りでビールを飲んでいると男の視界に黒光りするものが入った。男の一人暮らしでは現れても仕方ない。男は咄嗟にその黒い生物を飲み終わったばかりの空き缶に捕獲し、開口をガムテープで塞いだ。

このまま捨ててしまおうか。いや、せっかく捕獲したのであるし強いと言われる彼らの生命力を見てみるもの悪くない。男は生物学を専行する学生であった。彼らに対する嫌悪感よりも興味の方が先立ったのである。

一ヶ月が過ぎた。

大学から帰宅し、玄關脇に置いたビール缶を振って中の生物が生きているかを確認することが男の日課になっていた。振って中の音を確認すると、今日もカサカサと足音が聞こえる。どうやらしぶとく生きているようだった。

一カ月半が過ぎた。

そろそろ、飢えて死んでもおかしくはない時期である。しかし、振って中の音を確認すると未だにカサカサという足音のレスポンスがある。缶の中に残ったビールを啜って生きているのだろうか。男は不思議に思った。

二ヶ月が過ぎた。

振ると微かに生きている音がする。いくら生命力が強いといっても、閉じられた缶の中で生きられるわけがない。男はいぶかしんだ。

二ヶ月半が過ぎた。

缶の中から音はしなくなっていた。死んだと判断していいだろう。しかし、なぜこんなにも長く生きられたのだろうか。解答はこの缶の中にあるのだろうか。男は一度ためらった。そして、嫌悪感よりも興味の方が先立った。

家の外に出て、缶を開き、逆さにし、底を叩く。男は絶句した。地面には、ぶよぶよと肥大化した死骸と、無数の小さな脚が散乱していた。そう、男が捕獲したのは卵持ちの雌であり、彼女は生きるために食べたのであった。

ぞつとする漢字の由来

次の由来をもつ漢字はなんでしょう。

- ① 討ち取った敵の左耳を切り戦功を数えたことからできた。
- ② 上の部分は逆さの「子」、下の部分は両手とかごを表している。「生まれた赤子を捨てる」が字源。
- ③ 処刑される者が左下と右下から火に焼かれ、磔にされた体が熱によって膨れ上がり、焼けた皮膚が破裂してそこから血が吹き零れている様子を表している。

- ④ 両目を突かれて目が見えなくなってしまった奴隷を表す。多くの民衆がこういう状態で王に仕えていたことから。

- ⑤ 手枷をはめられた人の姿。火炙りなど残酷な刑が当たり前だった古代中国では、手枷をはめられる程度ならかなり軽い刑だったためこの意味になった。

- ⑥ 占い師が大勢で亀を押さえつけて、甲羅をはがすという占いを行っている様子からできた。

- ⑦ 切腹のとき、十字にきった腹から腸が出ている様子から、「十」に飛び出した腸の形を加えてできた。

答 ①取 ②棄 ③赤 ④民 ⑤幸 ⑥押 ⑦七

日の出から四時間ほど経った後に目を覚ますと俺の部屋はサウナ状態と化していた。部屋の隅にあるデジタル温度計は室内温度が摂氏三十七度であると主張していたが、購入から三日たらずで故障するような商品を出荷する製造元に文句のひとつでもつけたい気分であった。

「三十七度？そんなに温度が低いわけないだろ・・・」
体感温度が軽く四十度を超えているふうに見えるのか、ようやくベッドから体を起こして活動体制に入る。しかし休日の朝っぱらから体がフル稼働するはずもなく、しかも一人暮らしをしているとなればなおさら何事においても行動する気がなくなる。涼しくなる時間帯までもう一眠りしようかとベッドに腰掛けたところで玄関のドアがバンツと大きな音を立てて開いた。

「てっ！遊びに来てあげたよっ！」

私、矢角 哲也の彼女がそこにいた。そういえば今日、家に来ると言っていたが約束の時間より三十分ほど早いような気がする。

「何言ってるのよ。約束の時間ピッタシじゃない。」
そう言いつつ自慢の腕時計を俺に見せてきた。確かに約束どおりの時刻である。おかしいなと思いつつ自室の置時計を見てみると彼女の時計よりも三十分ほど遅れていた。

「もう。時計の時刻ぐらいいちちゃんとあわせとけい！」
「・・・。」

なぜだか沈黙するしかない気分が陥った。

「てっはまだご飯食べてないんでしょ？あけみが作ってあげるね。」

いつのまにか部屋に上がりこんでいたあけみはせつせと冷蔵庫の中身をチェックしている。

「はあー。冷凍食品ばかり。でも安心して！野菜持ってきたから。」

手に持っているエコバックのような袋を掲げながら言った。この炎天下の中そのようにずさんな管理下におかれて運搬された野菜など口にしたいくもないのだ。

「にんじん、たまねぎ、キャベツ・・・はっ！レタスをもつてくるのわすれたっす！」
「・・・。」

なぜ急に敬語をうまく使えない男子高校生のような口調になったのか。それとは別になんだかしらけた気分になる。レタス不在に不満を述べつつもあけみは調理を開始した。手馴れた手つきで野菜を次々と適当な大きさに刻んでいく。たいしたものだなと感じつつ、ふと俺はキャベツに小ハエがとまっていることに気づいた。ただでさえ品質管理に問題のある食材だというのに衛生的支障まで発生してしまっはとでも食す気にはなれない。キャベツだけは料理に混入しないでほしい旨を示唆するため俺はこう言った。

「キャベツに虫がついてるよ。」

「キャー、別のにしてええええええええええ！」

「・・・。」

俺の冷蔵庫にはろくな食材がないと先程確認したであろくに、代わりのキャベツなどあるわけがない。そしてここでもまた原因不明の不快感が湧き出てくる。結局、キャベツとレタスを欠いた状態であけみの力作料理が出来上がった。

「ご賞味あれ！これがあけみの本気だあ！」

どうやら彼女の最高傑作であるようだが、外見のみから分析すると刻んだ野菜を皿に盛り合わせただけのいわゆる一般的なサラダであり、それよりもまず予定されていた食材が二点ほど欠席している状態で声高々に本気と叫んでいるのであるうか。疑問の種が尽きぬままサラダに手をつけようとしたが、サラダにまぎれて潜むあるものを目にした俺は瞬時に手を止めた。

「キ・・・ノコが入っている・・・。」

今目に映っている光景が嘘であればいいのにも思いつながら虫の鳴くような声で俺はつぶやいた。そう、俺はキノコをどうしても食べることができない人間なのである。

「好き嫌いはだめよ！キノコおいしいじゃないの！」
あけみはそう言いながら俺が呆然として口を開いているのをいいことに、無理やりキノコを口の中にねじ込んできた。

「ほらっ！たとと食べる！」

「ちよっ・・・やめ・・・うええ・・・。」

抵抗もむなしく俺は強制的にキノコを食す羽目になった。この上なく気持ち悪い感覚に襲われる。

「キノコ食べて、やる気のこらず・・・ってか。」
「・・・。」

なぜ俺の様子をわざわざ言葉で表現する必要があるのか意味がわからない。あきらかに悪意がこもっているのしか思えないが、やはりそれとは別に場の空気が微妙な状態になったような感覚を覚える。ここで突然、あけみが悲しそうな顔を始めた。

「ぐすっ。てっに喜んでもらえないなんてつくった意味ないじゃん・・・。」
「・・・。」

なぜであろう。非常に申し訳ない気分になるべきであるのに、微塵もそうは思えない。それどころか今までで一番体温が低下したように感じた。だいぶ涼しくなったのかとあけみを無視して温度計を見てみると、モニターにはまだ三十七度の文字が映し出されていた。やはり製造元に問い合わせる必要があると思いつつ、いやいやながらもサラダを食べ続けるのであった。

「ダジャレを言うのは誰じゃ？」

僕には最近少し怖いことがある。鏡を見ると、鏡の中の「僕」が僕とは少し異なる行動をしているような気がするのだ。一週間くらい前から変だとは思っていたけど、当然そんなはずはないし、目の錯覚だと思い込むことで平穩を保っていた。しかし日が経つにつれ、「僕」の行動はどんどんおかしくなっていた。今だってほら、「僕」は僕に向かって手を伸ばしている。怖くてその場を動けなかった僕は、何かに引つ張られる感覚を感じながら、あまりの恐怖に意識を失っていった。

「あれ、おはよう。遅刻魔のお前がこんな早くに学校くるとはな。雨が降るぞ。」

「はは、いつも遅刻するわけじゃないよ。」

「いや、ほぼ毎日してるだろ。あれ、どうしたんだそのホクロ。昨日まで右目の下にあつたような気がするんだけど。」

「いや、前から左目の下にあつたよ。勘違いじゃない？」「そうか？なんかしゃべり方も違うし、違和感があるんだけど。まあいいか。」

こうして「僕」は僕になり、僕は「僕」となった。前の僕はどうしているかって？ 今もちやんと鏡の奥にいるよ。

「鏡のムコウ」

テラバイト

22世紀、幸運な事に人類の発展は続いており、相変わらず社会は目まぐるしいスピードで変化している。書籍もその例外ではない。

私はその変化の一端を担う仕事、書籍の電子化をする事になった。高速書籍スキャナーに情報変換機、それに最新の記憶デバイスを以てすれば造作もない仕事である。そう思っていた私は浅はかであった。この仕事は一朝一夕に終わる物ではない。仕事場に着いた私はすぐに壁にぶち当たったのだ。

まず、全ての文字が活字ではなく、手によって残された文字である事、更にそれが筆によって書かれている事、この事により私は情報変換機を使うことを断念せざるを得なくなった。

とりあえず私はスキャナーを駆使してページごとの画像をロードする事にした。一度画像にしておけば扱いが幾分か楽になるからだ。しかし、それも上手くは行かなかった。依頼を受けた書籍の大半が巻物状の創りをしているからだ。

私がつけてきた道具の中で唯一役に立ちそうな物は記憶デバイスであった。一つの書籍に記されている文字の数が大体百万字で、書籍数は約五十万冊であるから一文字当たり2バイトあるとしても一兆バイト、つまり1テラバイトもあれば記憶には十分である。

問題はそれをどうファイルに移すかである、一秒に十文字の字を写せたとして、24時間休まずに作業したとしても三千年はかかってしまう。これは途方もない事だ。

とはいえ他に方法が見つからない限りこの方法をやる他ない。テラバイトの文字群をマニュアルでパソコンに打ちこむのだ。

私は手近な書籍を手にとって文字を打ち始めた。

摩訶般若波羅蜜多心経……………

俺の仕事はテラバイト

最近暑くなってきたね。別の学校の友人から聞いた話なんだけど、折角君は僕の家にあがっているんだから、寒くなる話、ちょっと聞いてみるかい？

Blindness

とある少年……まあA君としようか、すごく大人しい子だったんだけど、この前自殺しちゃったんだよね。僕は詳しいことは知らないけれど、A君は、学校でひどい苛めに遭っていたらしい。パシリにされるのは序の口で、昼休みに殴られたり蹴られたり、ルールも知らない花札に参加させられて金を巻き上げられたり。まあ色々あったみたいなんだ。

そんな彼ももう耐えられなくなってしまったんだね。しかし驚くのはこれからだ。A君が自殺した次の日から、その苛めをしていた集団のメンバーが、次々と不審な死を遂げているんだってさ。一人は屋上から飛び落ち、一人は川で水死、一人は高校の化学実験室で硫酸を浴びて発見だそう。警察は事故として処理しているみたいだけど、A君の呪いだって専ら噂だよ。

……ん、なんでそんな泣きそうな表情なの？そっか、そいつらも君と塾が一緒なんだっけ。そういえば、よく話すって言ってたねえ。彼らがそんな酷い事していたって、知らなかったのか。ごめんね、世の中知らなくていいことって一杯あるよね。

え、そうじゃない？人が死んだのにそう噂話みたいに盛り上がる人間の神経ってどうなのって？ふふ、やっぱり君は優しいね。

まあ人間って、相手の立場になってモノを考えるって苦手だよ。A君を苛めていた奴らも、いくら酷い人たちだからって、死んだことをネタにできる僕たちも。どうして人間とはこんなにも残酷なんだろう。

でもいいか。僕は君がそのまま生きてくれれば十分だよ。

……いやいや、そんな怯えた顔しなくても、僕は君をあいつらみたいに、自殺や呪いに見せかけて殺したりしないって。君は魅力的なんだから、僕以外の人と話しちゃダメだからね？

A君には悪いことをしたとは思っけど、みんな僕の仕業じゃないと思ってくれるんなら、それでいいや。

それより、君が僕の家に来てから、もう一ヶ月経つのかあ。ずっと日が当たらなくて色白になった君も、お人形みたいでかわいいよ。

「私は誰よりも君を愛している」

あたしの部屋には君の写真が飾ってある。

君の笑顔が写った写真を見て、あたしは元気になれる。

あたしは毎晩、君に電話をかける。

君の声が少しでも聞けたら嬉しいなあ。って思うから。

でも、君は全然電話に出てくれないね。きっと忙しいんだろうね。しょうがない。

あたしは君のいろんな面を知ってるよ。

君の笑顔も好きだけど、他の人には見せない泣き顔だって起った顔だって、あたしは好き。

あたしはね。

君の全てが愛おしいんだよ。

でも、

恥ずかしがり屋なあたしは、君と直接話すことはできないの。

だから、遠くからいつもそつとあなたのことをみているよ。

あたしは誰よりも君のことを愛している

でもね。

こんなにも愛しているのに、君はあたしの名前さえも知らないんだよね。

夏休みももう終わりに近づいたころ、僕は約一ヶ月ぶりに東京に帰ってきた。

今年は大学の夏休みが長かったから、長めに北海道にある実家に帰省したんだよね。

実家はやっぱり良い。美味しいご飯は出てくるし、家族がいるから寂しくないし。

そして何より涼しい！

北海道は気温も湿度もそんなに高くない。この時期になればなおさら。

それに比べもう9月なのに東京のこの蒸し暑さは何なんだよ。北国を見習え北国を。

冷房なしでも充分快適な環境から離れたく無かったけど、仕方ないよな。

あーあ、あのくそ暑いボロアパートに戻らなきゃ行けないのか…。

クーラーは付いてるけど今年は節電だし、光熱費も馬鹿にならないから使えないよ。

まあ実家に帰る直前はあまりの暑さに耐えかねてちよつと使っちゃってたけどね。

大学が始まればまたレポート地獄か…

はあ…憂鬱だ…

アパートの鍵を開け、ドアを開ける。

あ、涼しくて気持ちいい…

……………え？

コンテスト結果

[Aの部]

コラム番号	コラムタイトル	点数 まじょコメント	順位	特別賞
A01	ニュース	4 pt かわいそうな女子高生さんの受難で幕開けです。 雪道踏んでさくさくさく。3つのツッコミポイントが うまいですねえ。そうか眼鏡してれば全裸じゃないの か、そうなのか。 何ともシュールでユーモラスな光景に爆笑な今週の表 紙でした。 イチオシフレーズ：「眼鏡一丁」	10 位	0 sp
A02	実際にあった怖い話	9 pt おお、ひっぱってひっぱって、そうですか。深夜のモ ニターに照らし出される男の、そして女の本能。 たしかに、とても背筋凍るシーンです。 ご家族の名誉(?)をキケンにさらしてまで楽しませ てくださった作者さんに拍手！ 最多特別賞の支持をい ただけましたよ、おめでとう!! ん？ ふいっくしょん？ 今さら言ったって遅いって ば。 特別賞：美咲賞（みだらな美咲が……） 女だったら嫌 で賞（女の子だったら嫌だから） ノンフィクション大 賞（作者が知り合いだったらいやだ） あるあるで賞 （お父さんだって人間なもの） \(\^o^)/賞（翌日父 親と対面してwww）	4 位	5 sp
A03	レンタル	3 pt 定番、アヤシイお店屋さんネタ入ります。 何にでもなれてしまうおもしろさがエスカレートし て、ついに自分で自分に刃を向けるまで。少しずつ加 速させつつラストできっちり収束させた構成、誠実で ていねいなお仕事ぶりです。 パクリ疑惑が出てますが、いかがでしょうか、作者さ ん？ 特別賞：どっかでみたことあるで賞（そのまんま） パ クリで賞（世にも奇妙な物語で見たことあるー。） パ クルな賞（パクってる） イチオシフレーズ：「内心次はあいつだと考える自分 がいた」	11 位	3 sp
A04	こんなやつが周りにいると背筋が……	5 pt 部長がブチヨっですか。寒っ。 友だちトークの親しさで、親をネタにしちゃう、こん なヤツいたら寒いよね感がしっかり伝わってきます。 ラスト1行でさっくりまとめたのが、グッジョブ。 ブチヨっの語感がウケにウケて、イチオシフレーズ大 賞でした、おめでとう!! イチオシフレーズ：「部長が潰れてブチヨっ」×4 「ファーザー」	7 位	0 sp
		15 pt	2 位	0 sp

A05	生存本能	ぎょええええ。ぞっとする度、ここでMaxへ。 さすが科学者の卵さんの観察力、リアリティ満載です。こーいうのは専門家に任せて、足早に通り過ぎましょう。よいこはまねしないように。 カサカサカサカサ、おぞましさを全開がヒットして、みごとシルバー・メダルでした、おめでとう!! イチオシフレーズ：「カサカサという足音のレスポンス」
A06	ぞっとする漢字の由来	10 pt 3 位 1 sp 妄想全開、漢字のエセ起源。 よくまあここまでブッ飛んだ妄想を考えつきますね～。ちゃんと全体を古代中国テイストで仕上げていて、統一感があるところもうまい。 それにしても、この処刑シーンのオンパレード、作者さんは果たしてS属性かM属性か？ おめでとう、ブロンズ・メダル！ 特別賞：教養賞（べんきょーになりました）
A07	ダジャレを言うのは誰じゃ？	6 pt 5 位 2 sp ダジャレアイドル、あけみちゃんのご登場です。 振り回されっぱなしのてつ兄、でもこれはノロケなのですよね、所詮。おしあわせに。 読者さんのためには、もすこしコンパクトでも良かったような。 特別賞：やるなら全部やれ賞 普段じゃ許されないで賞（寒くなる話だから通用する） イチオシフレーズ：「キノコ食べて、やる気のこらず」「ダジャレを言うのは誰じゃ？」
A08	鏡のムコウ	0 pt 12 位 0 sp パラレルワールドへご招待。鏡のムコウとこっちで、とつかえっこ。 これくらいの支障で済むんだったら、ときどきとつかえっこして気分転換するのもよろしいのでは。 サムサ全開の今週、ちょっと楽しい想像もできる作品でした。
A09	テラバイト	6 pt 5 位 0 sp いやもう、このギャグの寒さは、たしかにテラバイト級でしょう。 般若心経バイトをしつつ、来世のための御利益（ごりやく）も付いて来ちゃう、なかなかオイシイバイトを、みなさまのこころ本舗よりご紹介でした。 イチオシフレーズ：「俺の仕事はテラバイト」×2
A10	Blindness	5 pt 7 位 1 sp ラストでびっくり。え？1ヶ月も監禁状態!! 直ちに通報すべしレベルですね。 狂気の少年の思い込みトークだけで、事件の進展を読者に分からせちゃう語りのうまさ、さすがのおなじみ作者さんです。 特別賞：審査員特別賞（おしかった） イチオシフレーズ：折角君（おりかどくん）
		5 pt 7 位 1 sp ストーカーつづきます。 女性トークでやわらかく話しているのに、とても怖

A11	私は誰よりも君を愛している	い。ずっとずっと、こんな視線が遠くから追っかけてたら・・・ 「あたし」、誰だろう。人ですら、ないのかも。 特別賞：誤字で賞（内容がいいだけにおいしい！） イチオシフレーズ：「起こった顔」「あたしは毎晩、君に電話をかける。」
A12	とある貧乏学生の悲劇	22 pt 1 位 1 sp うわあ、やっちゃった！ 1 か月間クーラーつけっぱなし。どんだけ～？ トークでしっかり状況を見せてのラストだけに破壊力甚大です。 なんか誰でもやってしまいそう。気をつけましょう、そうしましょう。 省エネ推進のご時世に、とってもためになる今週の裏表紙、堂々のゴールド・メダルでした。乱入初成功の作者さん、おめでとう!!! 特別賞：特別賞（字体がぞっとした）

[Bの部]

コラム番号	コラムタイトル	点数 まじょコメント	順位	特別賞
B01	無題（クモ八匹）	24 pt え？ まじで？ 思わず身を乗り出してしまう身近な話題で、さっくり心をつかまえる今週の表紙でした。 シンプルだから、よけいに怖い。しっかりみんなのトラウマになって、ゴールド・メダルです、おめでとう!!!	1 位	0 sp
B02	既婚男性（42歳）は語る	3 pt いやいや、なかなかシャレっけの効いた神様ですね。 こうやって、みんなの願いを少うしずつズラしてかなえてくださるから、きっと世界は楽しいのです。だって、人はほんとに必要なものは何か自分で分かっていない愚者なのですから。 グッジョブ神様！ 特別賞：ロリコンで賞（ロリコンだろ j k）さむくない賞（さむくない） イチオシフレーズ：「妻（幼児）」	9 位	2 sp
B03	寺島直之：手記	4 pt こちらは悪魔くん登場。さすが悪魔くんだけあってフォローなしの冷酷さです。 始まっちゃったら止められない。助手視点で描くことでコミカルに仕上がっています。 でもねえ、作者さん、取り出したエネルギーを地球温暖化に使っちゃダメなの、ねえ？ イチオシフレーズ：「今回はエネルギーを司るマクスウェルの悪魔を召喚する」「県境金」	7 位	0 sp
B04	満員電車の中	1 pt 人と人がくっつく。こんなに距離が近いのに、逆に近いからこそ超不快。満員電車の不条理、うまいポイントついてきました。着想のユニークさに◎。 全人類をぎゅうぎゅうにおしこめたら、どっか小さな島にすっぽり入っちゃうなんて話がありましたね。 特別賞：潔癖賞（主人公が潔癖症っぽそう）	11 位	1 sp
		8 pt ホントにありそな都市伝説。	6 位	1 sp

B05	雪風	遊ぼうよ遊ぼうよ、無表情な雪だるまくんに責めさいなまれる悪夢の日々。リアルに怖いです。 そう、約束は守らなくっちゃいけません！ 特別賞：心があったまるで賞（心があったまったから）
B06	永遠に僕のもの	10 pt 3 位 1 sp 難病少女＋外科医さん＋よけいなカレシ。 救われないストーリーを緻密に展開していただきました。 外科医さんトークなので、彼の心の動きに読者も寄り添えて暗然たる思いへ導かれます。 でも人を助ける仕事をしているかたですもの、その本能が働いて、きっと手術中に心変わりしてくださるはず！ 力作への勲章ですね、おめでとうブロンズ・メダル！ 特別賞：犯罪寸前で賞（明日ストーカー犯でつかまりそうだから）
B07	盲腸の患者	2 pt 10 位 1 sp 病院つづきます。 こちらは幽霊と見せかけての病院ミスリード。 爽快に決まりました。盲腸さん、良かったね。 特別賞：盲賞（何が出るかな？） イチオシフレーズ：「出たあーーーーっ」×2
B08	家賃の理由	4 pt 7 位 1 sp Aブロックにも、すごいのが出たけれど、Gくんほんとに人気者。 ここでも昭和の住まいの片隅に生息して、場面を盛り上げていただきました。 リアリティ満載の描写ですね。まっくろくろすけなら良かったのに。 特別賞：気持ち悪かったで賞（とにかく気持ち悪かった）
B09	僕の一人旅	1 pt 11 位 0 sp トンネルで視覚的に見せたところがワザですね。 そこだけ「僕」と一人称なのは、あの世から語っていただいているからでしょうか。 地名とか入れると、よりリアリティ増します、おためしを。
B10	ママ	10 pt 3 位 3 sp 熱く熱くシャウトして、ラストがなんと「ママ」っ。 落差に大爆笑の親孝行ロッカーさんでした。 こんな熱いハートを届けられたら、きっとママもお喜びのことでしょう。ブロンズ・メダル&最多特別賞タイです、ママによろしく!! 特別賞：ママ賞（ママ）投函間違えたで賞（ドンマイ） ラップ賞（とにかくおもしろい!!） イチオシフレーズ：「ママ」「attention please!」 「wow wow×4」「thanks」
B11	究極の恐怖	13 pt 2 位 2 sp あーあ、バレバレですよ、ね、「新しいフォルダ」なんて。作成日時も見えちゃってるし。 そこまではしっかりお見通しで、こうやっていじめを楽しんじゃう彼女ナイス。 ラストの「いやあああ」は喜びに目覚めた喚起の雄叫びと見ました。相性抜群のおふたり、未永くおしあわせにっつと、みんなのエールがこもった（たぶん）シルバー・メダルです、おめでとう!! 特別賞：エッチで賞（エッチ）新しいフォルダで賞（どうして学籍番号知ってるの？）

		イチオシフレーズ：「大学の学籍番号」
		10 pt 3 位 3 sp
B12	圧倒的寒 気・・・っ！	超おなじみ「ざわ・・・ざわ・・・」から「ぞわ・・・ぞわ・・・」へ、1文字変換しただけなのに、なんだろう、この不可思議なるインパクトは？ そんな言葉マジックで驚かせて、とてもとても寒かった今週の読み納めでした。 最多特別賞タイ&イチオシフレーズ大賞&ブロンズ・メダルと、いっぱいgetです、おめでとう!! 特別賞：むしろあつい賞（字が厚くてむしろ暑い）コードギリギリで賞（ぞわぞわざわざわ）カイジ賞（カイジだから） イチオシフレーズ：「ぞわ」×2 「圧倒的寒気・・・っ！」×3